10月 園だより

＜教育目標＞ ・元気に遊ぶ子ども
・豊かに感じる子ども
・考え工夫する子ども

R3. 9. 30　文京区立本駒込幼稚園

全ての基盤は信頼関係

副園長　山下　美幸

秋の涼しい風が心地よい季節となりました。天気にも恵まれ、毎日園庭で、元気に遊ぶ子どもたちの歓声が聞こえてきます。

今年度の運動会は「ほんこま２０２１」と名称を変えて実施します。この名称は東京オリンピック・パラリンピックの刺激を受けて、年長すみれ組が考えました。当日に向けて、年少ちゅうりっぷ組では、海のイメージを取り入れ、魚の的に向かってかけっこをしています。笑顔で走る様子に思わず顔がほころんでしまいます。年中さくら組は、虫取りをして遊ぶ姿を生かして、虫のイメージで体操や身体表現をしたり、かけっこでは、金メダルの的に向かって走ったりしています。子どもたちの「やってみたい」「頑張るぞ」という気持ちを引き出すイメージを取り入れています。年長すみれ組では、折り返しリレーから、トラックリレーに移行し、一人一人が力を出すとともに、チーム一団となって競う楽しさを感じています。ビブスを着て走ることで、チーム意識も強くなり、何よりもバトンを仲間につなげるために真剣な表情で走る姿に自然と大きな声援が出てしまいます。

先日、東京オリンピックの女子バスケット代表チームの監督であったトム・ホーバス氏のインタビューを目にする機会がありました。「オリンピックの経験で一番大きいのは、選手たちが僕のことを信じて尊敬してくれたこと。逆に私は選手たちを信じて尊敬した」「厳しくても相手への尊敬が大事」と言っていたことがとても印象に残りました。強い信頼関係の基に、互いに同じ目標に向かう関係性の素晴らしさに感動するとともに、幼稚園でもこのような関係性でありたいと改めて感じました。

先日の年中組の研究保育では、年中、年長組の降園時間変更へのご協力をいただき、ありがとうございました。年間１回ずつですが、各学級の研究保育を行い、互いの保育を見合う中で、教師の指導力が向上できるよう取り組んでいます。１学期には年長組の研究保育を行い、今回は２回目となりました。研究保育を行う担任は、自分の指導を客観的に見てもらうことで、自分では気付きにくい点に気付くという貴重な機会となり、それが指導力の向上にもつながります。研究保育を見る教員も、協議する中で、自身の保育を振り返り、気付きや学びを得る機会となります。建設的に意見を出し合えるのも、教師間の信頼関係が基盤になっています。質の高い教育、子どもたちのよりよい成長につなげるという共通の目標に向かっているからこそのことだと感じています。

あと１０日ほどで「ほんこま２０２１」です。当日までの一人一人の子どもたちの頑張りの基盤には、教師と、そして保護者との信頼関係があります。楽しい当日となることを願っています。保護者の皆様、そして、いつも見守ってくださる地域の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。


ちゅうりっぷ組「かけっこ」


さくら組「身体表現遊び」


すみれ組「リレー」